

令和7年度卒業時の学修成果把握度と満足度及び1年修了時の学修成果の把握度の調査（まとめ）

教務委員会

2026年3月9日

アンケートの対象者は、令和7年度卒業生（25名）と令和6年度入学生（27名）であり、回答率は共に100%であった。

学修成果 卒業時の学生は、問1「自己管理能力、コミュニケーション力、チームワーク力の変化」、問2「文化や社会の理解、専門に関する知識と技術の変化」、問3「思考力、判断力、表現力、課題解決能力の変化」について、「とても向上した」および「向上した」と回答した割合がそれぞれ84.0%、84.0%、80.0%となり、学修成果について高い評価が得られた。

また、同一学生の1年次の結果と比較すると、いずれの項目においても「とても向上した」の割合が増加しており、特に問1および問3では顕著な伸びが見られたことから、在学期間を通じた能力の向上が自己評価として明確に示されている。

さらに、前年度の卒業生と比較すると、問1および問3において「とても向上した」の割合が増加しており、より高い自己評価につながっていることがうかがえる。加えて、問2についても「とても向上した」の割合が32.0%と昨年度（25.8%）を上回っており、専門的知識や理解に関する成長実感がより高まっていることが示された。

満足度 満足度に関する設問では、問4「在学中に受けた教育について」において「とても満足している」から「やや満足している」と回答した割合が96.0%であり、問5「本学でよかったと思いますか」においても同様に96.0%となった。これらの結果から、在学中の教育内容および本学での学びや学生生活に対する満足度は、全体として高い水準にあることが示された。

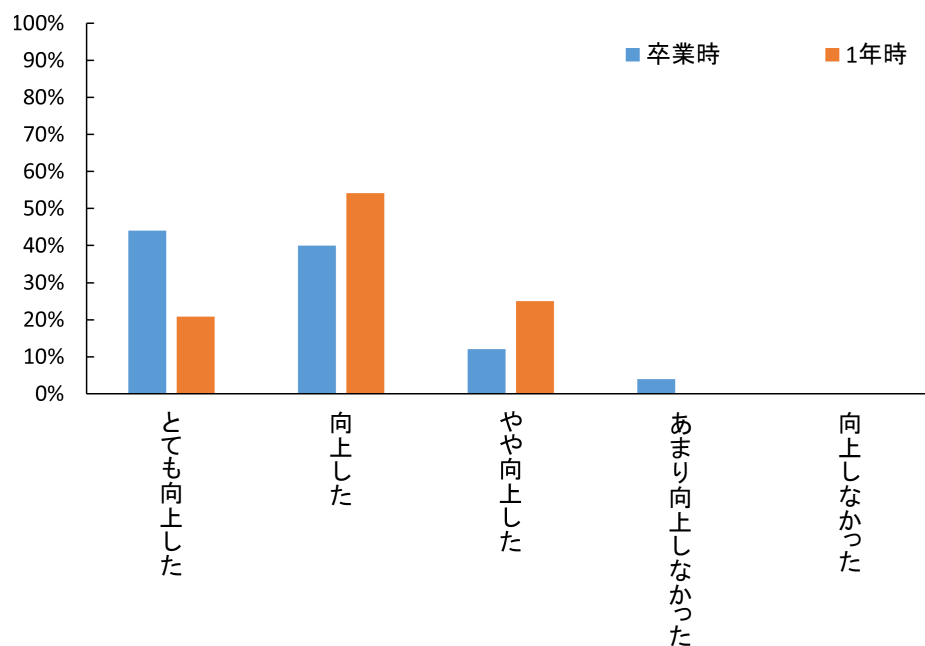
以上の結果から、本学における教育活動は、学生の学修成果の向上と満足度の双方において、概ね良好な成果を上げていると評価できる。特に、在学期間を通じた能力の伸長が学生自身の実感として表れている点や、教育内容および学生生活に対する高い満足度が維持されている点は、本学の教育の有効性を示すものといえる。

今後も、これらの成果を維持・発展させるとともに、一部に見られる評価の差異にも留意しながら、より一層の教育内容の充実と学生支援の向上に努めていく必要がある。

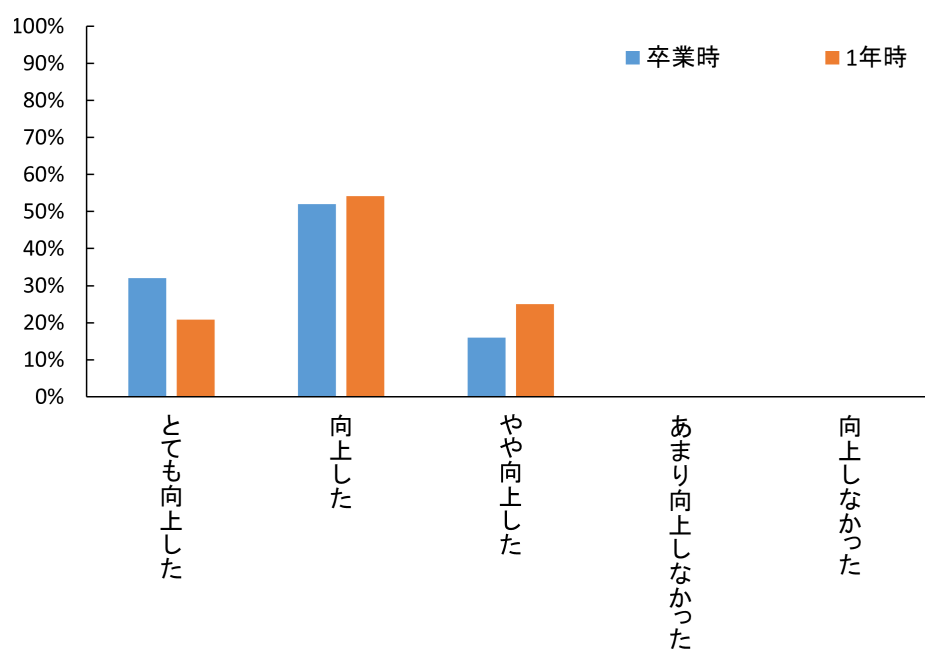
第Ⅰ部 学修成果の把握度

1 令和6年度入学生の卒業時と1年時の比較

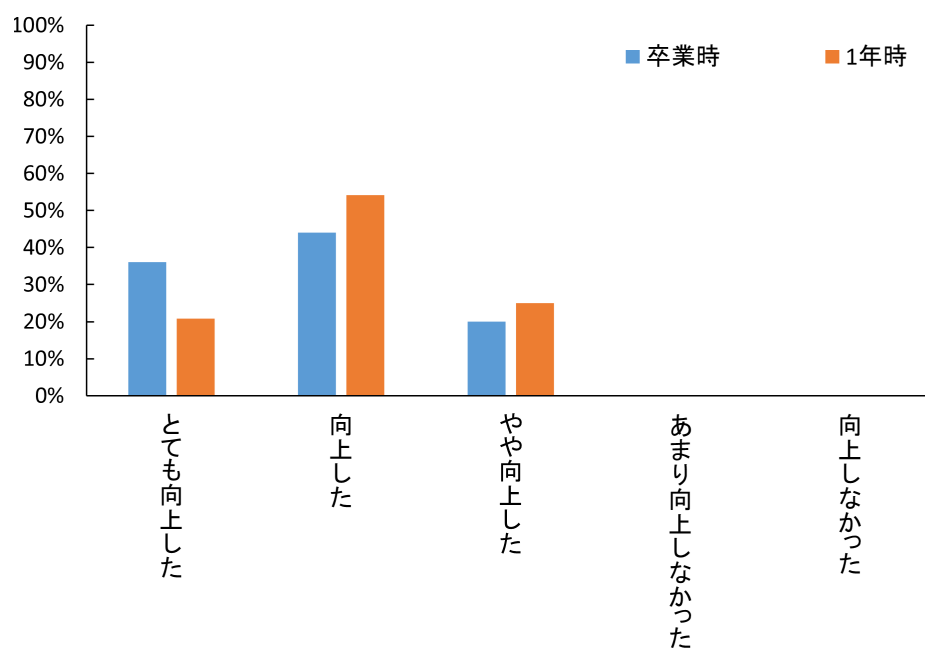
問1. 入学時と比較し、自己管理能力、コミュニケーション力、チームワーク力はどの程度変化したと思いますか。



問2. 入学時と比較し、文化や社会の理解、専門に関する知識と技術はどの程度変化したと思いますか。

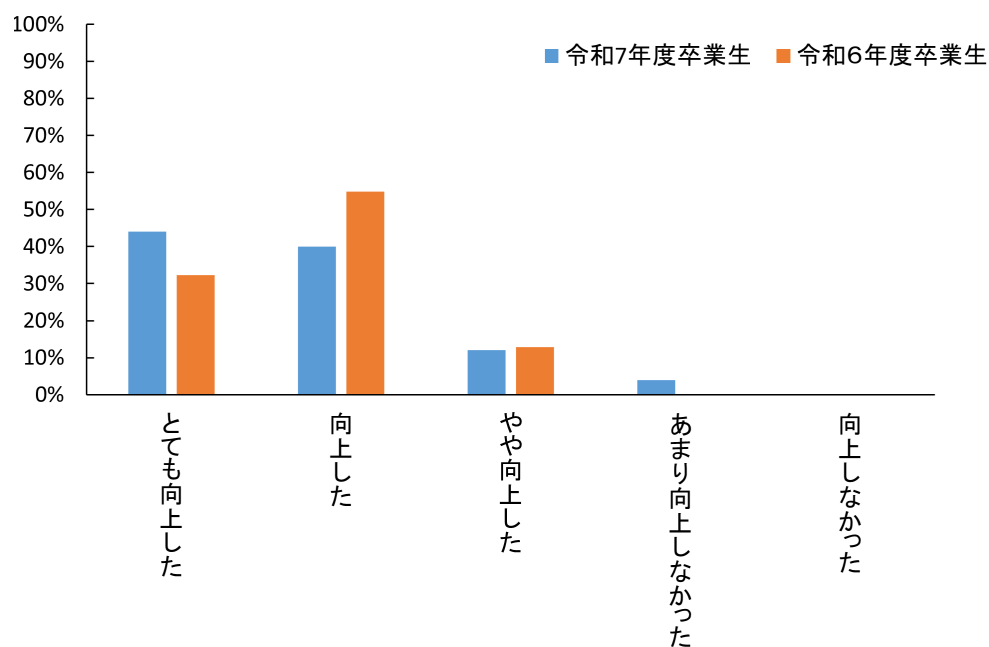


問 3. 入学時と比較し、思考力、判断力、表現力、課題解決力はどの程度変化しましたか。

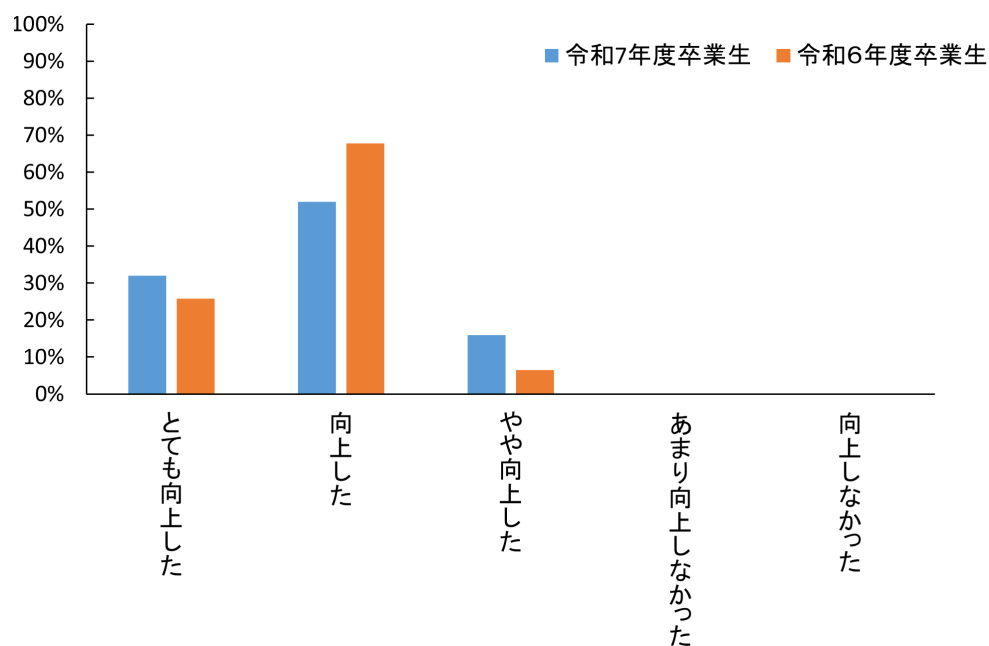


2 令和7年度卒業生と令和6年度卒業生の卒業時の比較

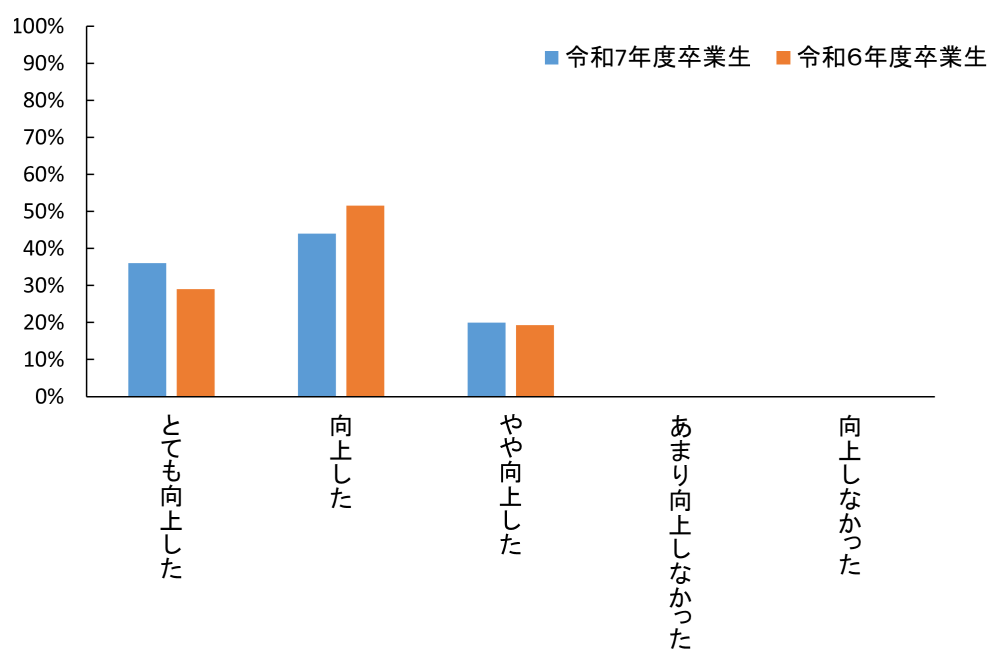
問 1. 入学時と比較し、自己管理能力、コミュニケーション力、チームワーク力はどの程度変化しましたか。



問2. 入学時と比較し、文化や社会の理解、専門に関する知識と技術はどの程度変化しましたか。

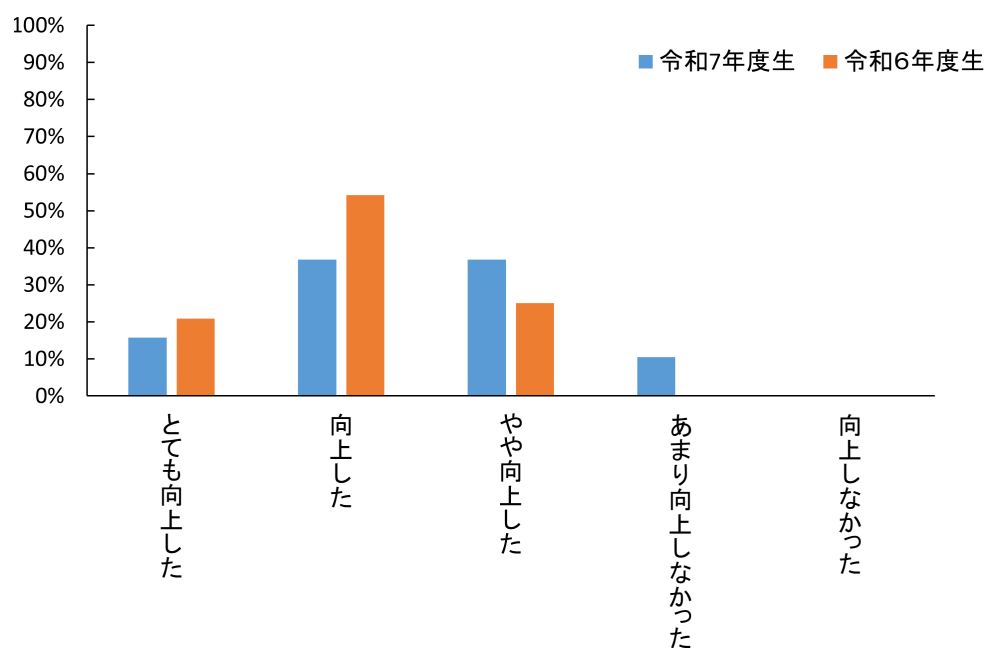


問3. 入学時と比較し、思考力、判断力、表現力、課題解決力はどの程度変化しましたか。

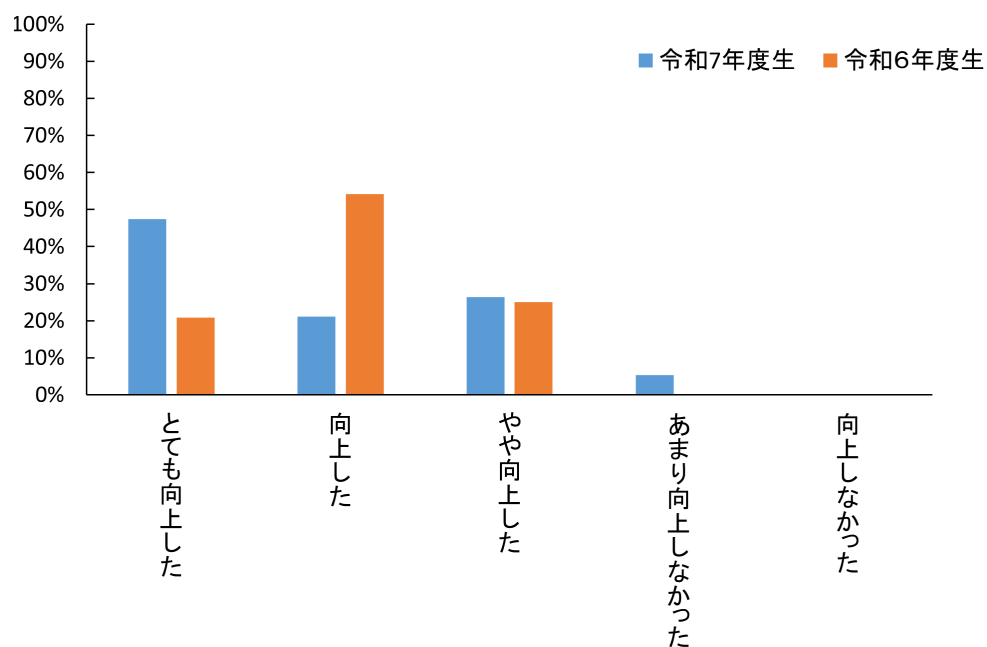


3 令和7年度1年生と令和6年度1年生の1年修了時の比較

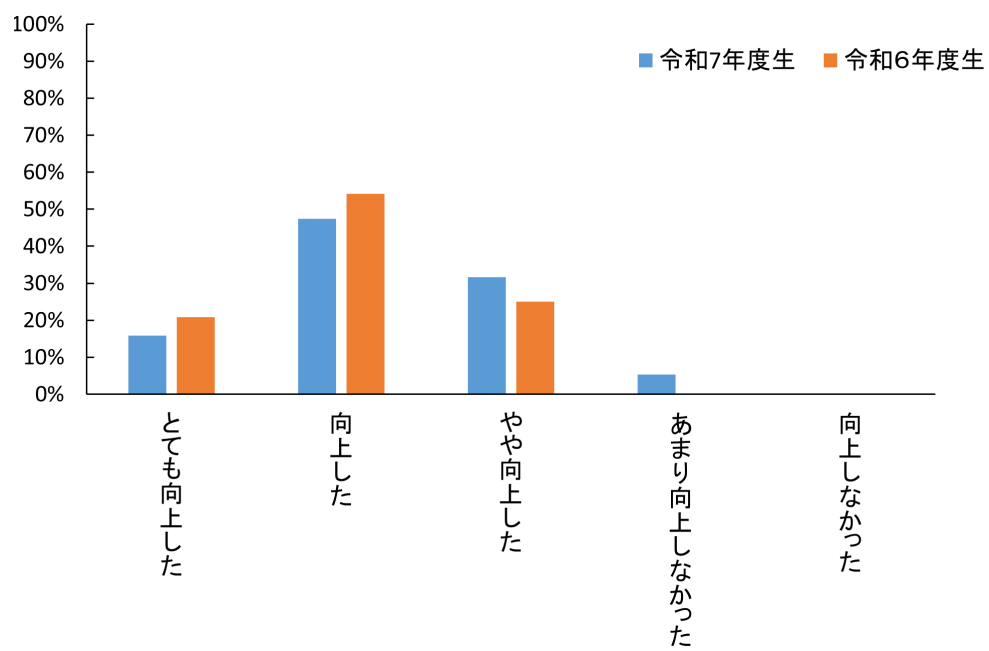
問 1. 入学時と比較し、自己管理能力、コミュニケーション力、チームワーク力はどの程度変化したと思いますか。



問 2. 入学時と比較し、文化や社会の理解、専門に関する知識と技術はどの程度変化したと思いますか。



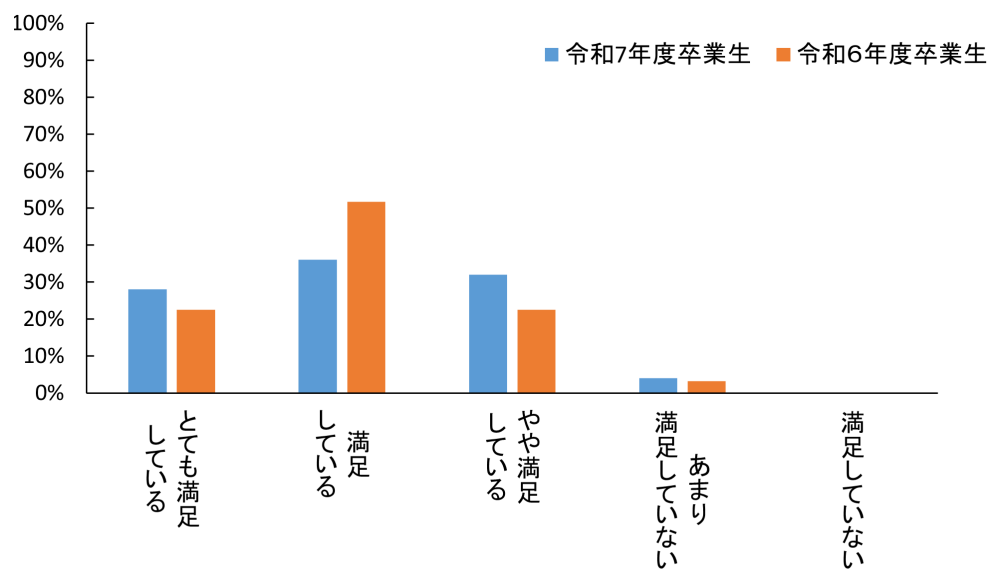
問3. 入学時と比較し、思考力、判断力、表現力、課題解決力はどの程度変化しましたか。



第Ⅱ部 満足度

4 令和7年度卒業生と令和6年度卒業生の卒業時の比較

問4. 在学中に受けた教育について、次のどれにあてはまりますか。



問5. 修紅短期大学で学んでよかったと思いますか。

